

いのちとくらしをまもる
防 災 減 災

東日本大震災復興対策本部会合資料

～復興・創生の実現に向けて～



1. 東北における観光復興の取組
2. 鉄道の復旧状況
3. 被災地における生活交通の確保
4. 造船業の復興
5. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連の動き

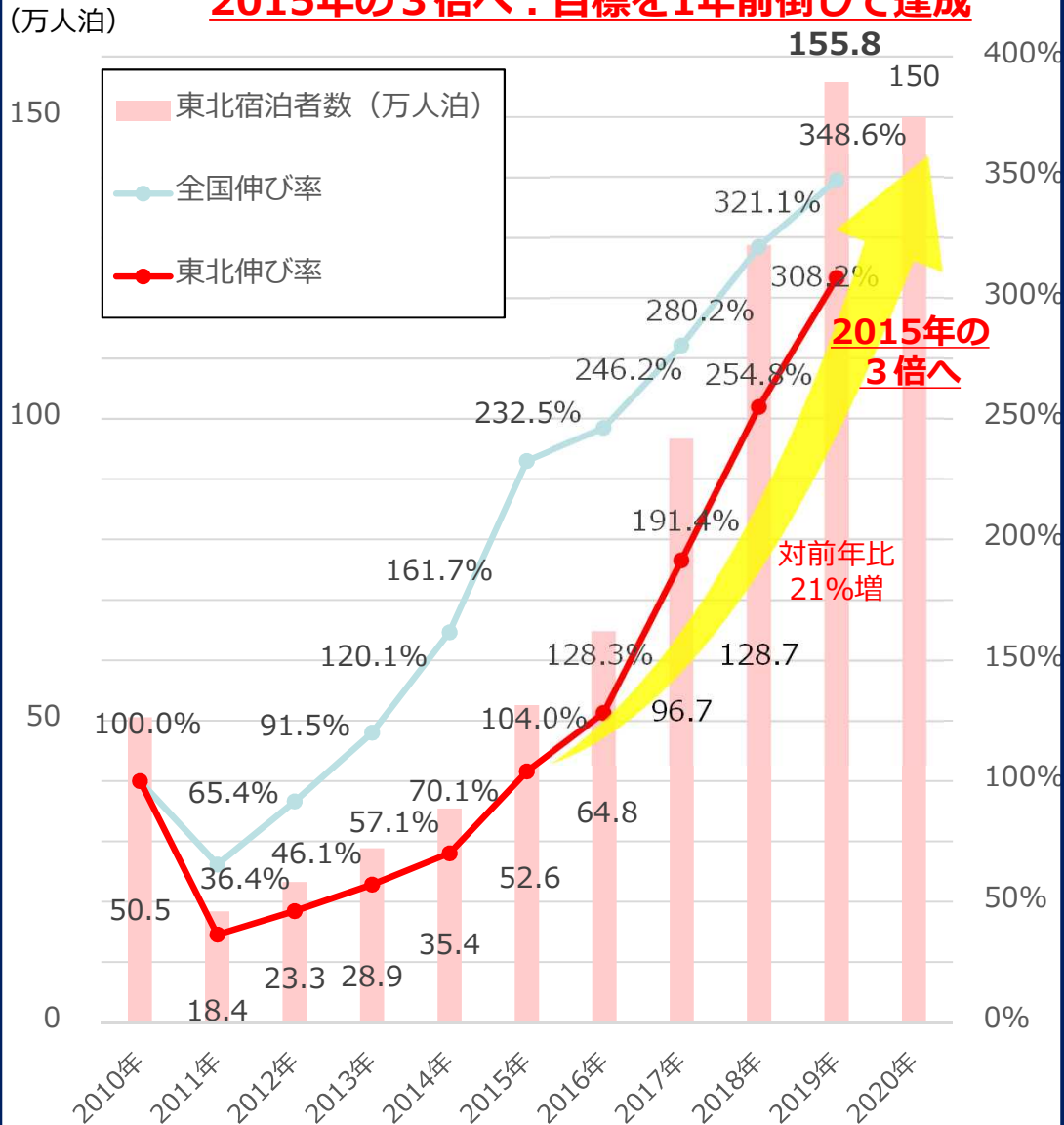
令和2年3月10日

東北運輸局

1. 東北における観光復興の取組

訪日外国人旅行者数の現状と観光ビジョン目標

2015年の3倍へ：目標を1年前倒して達成



東北一体となった訪日プロモーションの主な取組

▶ 東北6県知事らによるトップセールス (タイ・バンコク)

東北6県、新潟県及び仙台市、東北観光推進機構、経済団体等が一体となってバンコクを訪問 (R1.8.27)。仙台-バンコク線の再就航(R1.10.30)につながった。



▶ 欧米向け情報発信の強化

欧米向けにSNSによる情報発信を開始したほか、欧米の富裕層や知識層の読者を多く持つ「ナショナルジオグラフィックトラベラー」や「CNNトラベル」等の有カメディアの取材に対し、東北観光推進機構や取材先関係者等と連携し支援を実施。東北の魅力が世界に認識され、「ロンリープラネット」が発表する「Best in Travel 2020」(10月)、「ナショナルジオグラフィック」が発表する「2020年版 Best Trips」(11月)に東北地方が選出された。

受入環境の整備等の主な取組

▶ 城泊 (日本版キャッスルステイ) 体験コンテンツ造成事業

欧米豪の富裕層向けに、来年度の旅行商品化を目指し白石城での城泊体験、日本の伝統文化体験 (居合道、日本舞踊等) のコンテンツを造成。



▶ 広域二次交通の整備及びデジタル化支援事業

2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて、訪日外国人旅行者の利便性向上を目的に、観光地への経路の検索機能、東北6県の交通事業者の基本情報や問い合わせ先、周遊パスの情報を多言語化し、その情報を東北観光推進機構のプラットフォーム上で一元的に発信。

※従業員数10人以上の施設における延べ宿泊者数 (出典：観光庁宿泊旅行統計)

2. 鉄道の復旧状況

東日本大震災で被災した鉄道について、順次、復旧が進捗し、現在運休中のJR常磐線「浪江～富岡間」20.8kmは、3月14日に運転を再開。

(※ 震災10日後：25路線：2,530kmが運休)



【旧JR山田線(宮古・釜石間)】55.4km
 ※ 三陸鉄道へ運営移管
 ・平成31年3月23日 三陸鉄道リアス線として8年ぶりに運転再開

【JR常磐線(浪江・富岡間)】20.8km
 ・令和2年3月14日 運転再開

東日本大震災により運休中の区間
 BRTによる本格復旧で合意

三陸鉄道リアス線(旧山田線)の運転再開

- 震災から8年の年月を経て、三陸鉄道に運営移管の上、平成31年3月23日に運転再開
- 運行にあたって必要となる三陸鉄道の第一種鉄道事業許可を含む鉄道事業再構築実施計画を大臣認定(平成31年1月31日)



運行開始記念列車出発式のテープカット



記念列車を歓迎する沿線住民(鵜住居駅)

常磐線の復旧状況

- 施設等の復旧工事が概ね終了し、令和元年10月24日施設(閉そく装置)完成検査を実施
- 令和元年12月から試運転を開始。現在は訓練運転を実施し3月14日の運転再開に備える
- 令和2年2月6日富岡駅～夜ノ森駅間において、異常時対応訓練を実施



橋上化した双葉駅



高線量区間の避難用道路の整備

- 令和元年10月12日未明から13日にかけて、太平洋沿岸を縦断した台風により、東北地方の鉄道も豪雨等の被害を受け、JR東北線、八戸線、磐越東線、水郡線のほか、民鉄では三陸鉄道や阿武隈急行も土砂流入、路盤流出などの被害により、現在でも一部区間において運休が続いている。
- 鉄道の早期復旧に向け、道路・河川・山林などを管轄する国、地方公共団体等の関係機関で構成する「災害復旧に係る事業間連携に関する連絡調整会議」を線区ごとに立ち上げ、被災状況・復旧に向けた課題の共有を通じた復旧に向けての協議を実施。

阿武隈急行復旧状況



三陸鉄道被害状況



3. 被災地における生活交通の確保

- 復興事業や避難指示解除等により変化する被災地の移動ニーズに柔軟に対応するため、バス交通や乗合タクシー等の運行を支援〔地域公共交通確保維持改善事業（被災地特例）〕
→復興が進むにつれ、仮設住宅の解消等により、**補助対象となる系統数や市町村数は減少**
- 復旧・復興が進むことによりまちづくりが進展していくにつれ、被災地域では**地域公共交通網形成計画の策定も進んでいる**
- 3月の常磐線全線開通に伴い、バス路線について、駅を経由するルートへの見直しも予定されている

○地域公共交通確保維持改善事業(被災地特例)の適用状況

◆ 地域間輸送（被災地域地域間幹線系統確保維持事業）

（補助金額の単位：百万円）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
系統数	126	67	67	61	47
補助金額	811	483	456	468	421

○地域公共交通網形成計画策定状況(被災地域)

	策定済	策定中・予定
岩手県	8	0
宮城県	8	0
福島県	4	1

（令和2年2月末日現在）

◆ 地域内輸送（特定被災地域公共交通調査事業）

（補助金額の単位：百万円）

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
岩手県	市町村数	10	7	6	6	5
	補助金額	346	255	242	186	145
宮城県	市町村数	10	9	7	6	5
	補助金額	360	332	251	215	100
福島県	市町村数	12	11	9	7	5
	補助金額	318	276	194	168	116
合計	市町村数	32	27	22	19	15
	補助金額	1024	863	687	569	361



仮設住宅を回る地域内バス

被災地を走る地域間バス

4. 造船業の復興

- ▶ 東北地域の基幹産業である水産業と地域経済・雇用を支える重要な産業であった造船業は、東日本大震災によりすべての施設が壊滅的に被災
- ▶ 本格的な復興が困難な事業者を支援するため、主に漁船の建造・修繕を行う中小造船・関連事業者が移転・集約化等により整備する共用造船施設・設備に対して、2/3を補助する制度を平成25年度に創設（東日本大震災復興特別会計より総額160億円で基金を造成（本省海事局において要求））

補助事業の実績

- ▶ 気仙沼市、石巻市、大船渡市及び南三陸町より8事業（17造船事業者、5関連事業者）が造船業等復興支援事業費補助金を申請・認定（補助金総額112.3億円）
- ▶ 現在、(株)みらい造船（右記）を含む全8事業が完了し、新たな造船所にて本格操業を開始

地域	件数	補助金額
大船渡市	2 (4事業者)	1.9億円
気仙沼市	1 (7事業者)	70.3億円
南三陸町	1 (3事業者)	0.9億円
石巻市	4 (8事業者)	39.2億円
合計	8 (22事業者)	112.3億円



みらい造船事業

- ▶ 気仙沼市の4造船事業者及び3関連事業者が新会社「(株)みらい造船」を設立（平成27年5月1日）し、新造船所に集約
- ▶ 造船施設整備の総事業費は105.5億円（うち補助金70.3億円）
- ▶ 敷地は気仙沼市が復興交付金で造成（63.5億円）
- ▶ **令和元年5月末、完工及び一部操業開始**
- ▶ **同9月、完成式典開催（国交副大臣ほか出席）**
- ▶ **同11月、安倍総理視察（赤羽国交大臣・和田政務官ほか同行）**
- ▶ 令和2年1月現在、新造船4隻目建造中など本格操業開始済み



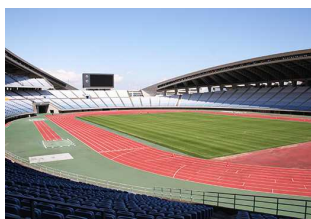
みらい造船所新工場全景



東京2020オリンピック

復興オリンピック・パラリンピックとして、世界に魅力を発信

会 期：2020年7月24日（金）～8月9日（日）
試合日程：サッカー 7月22日～8月1日（6日間10試合）
 野球・ソフトボール 7月22日～7月29日（3日間 7試合）
会 場：宮城スタジアム、福島県営あづま球場



宮城スタジアム

(写真提供：公益財団法人宮城県スポーツ協会)



福島県営あづま球場

(出典：大会HPより)

- ▶ 東北運輸局では、宮城県・福島県でそれぞれ開催されている輸送連絡調整会議及び輸送検討会に参画。
- ▶ 当該会議において、観客輸送等のルートの概要が決定。
 →**今後は、バスの確保についての協力や、災害時・緊急時の連絡体制の確立に向けた事業者との調整、インバウンドを含めた災害時等の必要な情報発信等の要請等を実施**
- ▶ 聖火リレーは、福島県楡葉町の「ナショナルトレーニングセンターJヴィレッジ」からスタート。当該リレーコースにおける鉄道や旅客船の使用について、本省と連携しながら対応中。

共生社会の推進

共生社会ホストタウン交流相手国、競技種目一覧

共生社会HT	相手国	競技種目
三沢市	カナダ	車いすバスケ
弘前市	ブラジル	パラ柔道
遠野市	ブラジル	ブラインドサッカー
仙台市	イタリア	パラ水泳・パラ陸上 パラ卓球・車いすフェンシング シッティングバレーボール
仙北市	タイ	車いすバスケ
大館市	タイ	ボッチャ パラ柔道
鶴岡市	ドイツ モルドバ共和国	ボッチャ パラ柔道
酒田市	ニュージーランド	パラトライアスロン
東根市	ドイツ	シッティングバレーボール ゴールボール
福島市	スイス	パラバドミントン パラ陸上

東北における共生社会HT（10件）



※青字は先導的共生社会HT

(2019年12月現在 競技種目については今後変更となる可能性あり)

青森県三沢市

まちあるき点検の実施状況
 (写真提供：三沢市)



岩手県遠野市

高校生と5人制サッカーをするブラジル代表選手
 (写真提供：遠野市)



- ▶ オリパラを契機とした「心のバリアフリー」のさらなる前進のため、ゲートウェイである仙台空港従事者や、福島市内の飯坂温泉旅館協同組合関係者に対して、バリアフリー教室を開催。今後、宮城県の都市ボランティア向け研修においても、バリアフリー教室の開催を予定。

→引き続き、自治体と連携し、共生社会実現を後押し

東北・新潟「東北ハウス」による誘客促進・交流拡大支援

2020年7月18日～8月9日、8月24日～8月30日、東北経済連合会や各県等により、高輪ゲートウェイ駅前他にて、東日本大震災からの復興や感謝の意を表した「東北ハウス」を情報発信拠点として設置。認知度向上や風評払拭、送客、交流拡大を目的とした取組を支援。



ロゴマーク



「東北ハウス」内の大型スクリーンイメージ 6